



◆ **ゆず湯** でポカポカ ◆ もうすぐ受付開始です！

- 「冬至(とうじ)」＝「湯治(とうじ)」…湯につかって病を治す。
- 「柚子(ゆず)」＝「融通(ゆうずう)」…融通が利きますように…。



冬至…皆様もご存知の通り、冬至と言えば一年で最も昼が短く（夜が長く）なります。ちょうどこの日を境に、ぐっと寒さが増しますよね。昔の人々はこの冬至の時期になると、食料の調達が難しくなる事から、生活に不安を感じ、無病息災を祈って柚子のお風呂に入るなどしていたようです。では、なぜ、「お風呂」と「柚子」なのでしょう…？



これは、「冬至(とうじ)」＝「湯治(とうじ)」＝「湯につかって病を治す」とかけているそうです。お風呂に入って体を温めて、寒さを乗り越えよう！という考えです。そこに柚子が使われるようになったのは、この季節の旬の果物であるという事もありますが、旬の柚子は特に香りが強く、昔から香りが強いものには邪気を祓うという考えがあった為と言われています。そして柚子もまた冬至と同じく「柚子(ゆず)」＝「融通(ゆうずう)」＝「融通が利きますように…」との願掛けがふくまれています。

(ちなみに、5月5日に「菖蒲(しょうぶ)湯」に入るのも、「(我が子が)勝負強くなりますように」という、ゆず湯と同じ願掛けのようです。)

また、ゆず湯は体にとって様々な良い効果をもたらします。柚子の精油成分には血行促進効果があるため、体をあたためて風邪を予防したり、冷え症や腰痛、リウマチなどにも効果があると言われています。さらに、果皮に含まれるクエン酸やビタミンCによって、女性には嬉しい美肌効果もあります。

ゆず湯の入り方は人それぞれ…。皆様、今年もゆず湯に入って、冬の寒さに負けない元気な体を目指しましょう！

一般的なゆず湯の入り方

- 丸ごとお風呂へ…
- 輪切りや半分にカットしてお風呂へ…
- 皮だけを入れる
- 液をしぼって入れる 等々

*コムテックでは、今年も「柚子」の販売を行います。

11月中旬よりご注文を受付致しますので、詳しくは弊社までお問い合わせ下さい。

TEL : 073-444-4139



(つめみがきの上で) zzz…

ほこり写真

コムテック事務所から車で約5分ほど走ったところに、「和歌浦天満宮」がございます。こちらは和歌山市の和歌浦というところにあり、和歌山市のちょうど西側（海側）に位置します。



この「和歌浦天満宮」は、学問の神様である「菅原道真」



を祀っており、太宰府天満宮、北野天満宮とともに日本の三菅廟（さんかんびょう）と言われています。古来より広く信仰されており、毎年受験シーズンになると合格を祈願する多くの学生が訪れます。写真の通り、急な石段ではありますが、頑張ると登ると、

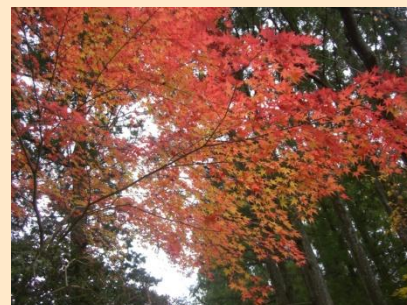
楼門と本殿がございます。いずれも国の重要文化財に指定されており、楼門からは和歌浦の風景や片男波海水浴場などが一望できます。



天気の良い日は特に絶景です。和歌山に来る機会があれば、ぜひこちらの天満宮を訪れ、この景色に、心を癒されてみてはいかがでしょうか。

コラム 紅葉

11月に入り、早いところでは紅葉が見頃を迎えています。木の葉が赤や黄など、色鮮やかに染まり、普段何気なく通っている道にも風情を感じるものです。さて、この「紅葉」、葉が色づくには理由・条件がございます。



まず、葉の「色」についてですが、イチョウのように黄色に変化するものもあればカエデのように赤色に変化するものもあります。これは、葉の持っている栄養素の違いによるものです。秋になって気温が下がり始めると、葉と枝の間に層が作られて、糖分や水分を運ぶ事ができなくなり、葉の葉緑素が壊れてしまうそうです。するとイチョウであれば、今まで見えなかったカロチノイドという黄色い色素が、カエデであればアントシアンという赤い色素が目立つようになります。

次に、葉が色づく「条件」ですが、これには「日中の天気」と「夜の冷え込み」、そして「水分」の3つの要素が大きく関係しています。日中の天気が良いほど、赤い色素となる糖分が活発に作られます。しかし、夜、気温が高い場合、木が活動しようとして昼間作った糖分を使ってしまいます。ですから、昼間は日光が強く、夜はぐっと冷え込むといった気候と、木が乾燥して枯れない程度の雨や水分があるところでは、より美しい紅葉を見る事ができます。

紅葉の名所に、渓谷や川沿いが多いのは、こういった理由があるからなんですね。

